

**京都大学教育研究振興財団助成事業  
成 果 報 告 書**

平成21年3月31日

財団法人京都大学教育研究振興財団  
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事業区分	平成20年度・大学全体計画事業助成			
事業名	京都大学未来フォーラムの開催			
成果の概要	タイトルは「成果の概要/報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無 有( )			
会計報告	事業に要した経費総額	1,997,875円		
	うち当財団からの助成額	1,600,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	運営費交付金	
	経費の内訳と助成金の用途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	国内旅費	202,260	202,260	
	印刷製本費	798,000	798,000	
	通信運搬費	230,518	230,518	
	謝金	399,000	324,000	
	施設使用料	322,875	322,875	
消耗品等	45,222	45,222		
合 計	1,997,875	1,600,000		

## 京都大学未来フォーラムの実施状況について（報告）

### （総評）

「京都大学未来フォーラム」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学の第1期「中期目標・中期計画」の柱に掲げられている教育計画の実現に資する事業として開催しているものである。

実施にあたり、国際的視野、社会・経済の変化に対応しうる幅広い視野で活躍されている方々を講師に招き、講演と意見交換の場を提供することにより、本学学生に対する学習・研究意欲を涵養する事業の一つとし、企業や官庁、国際機関、NGO、大学・研究機関、マスメディア、文化・芸術など様々な分野で活躍する方々を通して得られる社会からの情報還元により、学生自身が社会・経済及び文化に対応し得る幅広い視野と総合的な判断力を養い、社会の中で幅広く物事に対処できる自己の確立、また、学生自身の学習・研究への意識や意欲の向上を図ることにより、自学自習の中での自己研鑽及び意識改革へとつなげることで効果として期待している。

平成20年度は5回のフォーラムを開催し、滋賀県知事、京都国立博物館長、青山学院大学教授、住友商事相談役、小宮コンサルタント代表取締役及び作家と多様な分野の講師によりフォーラムを開催した。

各講演終了後に質疑応答の時間を設けており、活発な質問が行われている。

未来フォーラムには、5回で延べ2,212名の参加者があり、1回当たりの開催について442名の参加者があった。参加者の意見聴取については、毎回フォーラム終了後にアンケートを実施し、今後どのような分野の講師を希望するか等の意見を参考に講師の人選を行っている。

### （参考：教育目標の要点）

- ・豊かな教養と人間性、さらには強固な責任感と高い倫理性を涵養し、国際的視野とコミュニケーション能力を備えた人材を育成する。
- ・基礎研究を始めとする多様な学術研究を推進するとともに、社会・経済の変化に対応し得る幅広い視野と総合的な判断力を備えた専門的及び学際的人材を育成する。
- ・国際水準に照らした教育環境を整備し、学生に対する支援体制の充実に努める。

### （今後の計画）

平成21年度の計画について、京都大学より「教育活動の推進事業」を更に進めるため、今後とも貴財団よりの助成をお願いする。